

施工前

河川表層被覆工 片側140m×両岸

経年により、護岸ブロックの表層劣化、破損や隙間が目立つようになりました。

弊社は、以下の理由でご採用をいただけたと考えております。

- ①ブロックの破損部や隙間から背面への水の侵入を防ぎ、護岸を強化する。
- ②ブロックの表層を被覆することで、劣化を防ぎ耐候性を維持する。
- ③満潮時に海水が侵入するので、耐塩性を重視した。
- ④プライマー無で、打ち継ぎ、打ち重ねができるのでメンテナンスが容易である。
- ⑤現在の護岸を生かし、機能を維持し長期延命を図る。



施工中

表層の劣化、ブロックの欠損、隙間が確認できます。



下地処理として、Eagle8をブロックの破損部、ブロックの隙間に充填されました。



施工には、30度の温水を使用し、材料を練られました。ミキサー、たるとコンパクトな施工体制でした。



施工後

大容量カップガンでの吹付施工



- ①下地洗浄後に、補修面が濡れていても施工可能です。
- ②氷点下に近い、寒中で工事を実施されました。
- ③下地処理から吹付のとおり、プライマー無しで、打ち継ぎ、打ち重ねが可能です。今後は、吹付を含めた施工性の向上を更に検討してまいりたいと考えております。